

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年9月25日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 理学研究科

職 名 准教授

氏 名 藤 井 道 彦

事業区分	平成21年度・シンポジウム等開催助成			
事業内容	「第21回 ロルフ・ネヴァンリンナ・コロキウム」			
開催期間	平成21年9月7日 ~ 平成21年9月11日			
開催場所	京都大学百周年時計台記念館			
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(プログラム)			
会計報告	事業に要した経費総額	飲食・宴会経費を除いた額)	9,800,000 円	
	うち当財団からの助成額		1,500,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加登録費、日本学術振興会二国間交流事業、科学研究費補助金 京都大学グローバルCOEプログラム、東京工業大学グローバルCOEプログラム、SNSF, Sakae Stunzi財団		
	経費の内訳と助成金の用途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		旅費・滞在費	7,500,000	182,000
		謝金	300,000	60,000
		カンファレンスパッケージ(含印刷費)	360,000	324,500
		会場使用料	670,000	634,200
		事務経費	970,000	299,300
	合 計	9,800,000	1,500,000	

「成果の概要 / 藤井道彦」

事業内容：第21回 ロルフ・ネヴァンリンナ・コロキウム

開催日：平成21年9月7日(月)～9月11日(金)

開催場所：京都大学百周年時計台記念館

URL：<http://nevanlinna.jp>

平成21年9月7日から9月11日までの5日間、京都大学百周年時計台記念館において、「第21回 ロルフ・ネヴァンリンナ・コロキウム(以下、RNC と略記する)」を開催した。RNCは、1964年に第一回目が開催され、これまで欧米において20回開催されてきた。この伝統ある国際研究集会を今回初めて日本で開催することができた。はじめての日本開催ということであったが、168名(海外から60名、国内から108名)という予想を大きく上回る参加者があった。

今回のRNCでは、複素解析学を中心として幾何学から解析学までの関連する分野で現在活躍している研究者を国内外から招き、講演をして頂いた。総合講演は10件あり、ともに広範な分野にまたがる内容であって、質が大変高いものであった。

具体的には、

- ・ネヴァンリンナ理論の高次元化や数論幾何との関連
- ・ペレルマン以降のリッチ・フローの幾何解析
- ・グロモフ流の無限群の幾何
- ・数論的双曲幾何
- ・確率論を用いての幾何解析

などが代表の藤井にとっては印象的であった。また、会場を3つに分割してのセッションが26件あった。そのどれもが最先端の話題に関するものであり、参加者にとって現在の研究動向を知る格好の機会となった。同時に行われる3つの講演からどれか一つを選択するのに迷ったという参加者からの声が数多く聞かれた。このことはすべての講演の内容の数学的価値の高さを示しているといえよう。さらに、世界をリードする日本の専門家、小林亮一氏と深谷賢治氏による連続講義(ミニコース)も行われた。このミニコースでは、現在重要となっている問題点

- ・幾何学的対象に関するネヴァンリンナ理論の類似
- ・ラグランジュ・フレアー・ホモロジーの建設

に的を絞って、それらを大局的な視点から解説するものであり、大勢の若手研究者にとって今後の研究に役立つものであった。RNCでこのようなミニコースを開催したのははじめてであったが、今後のRNCでこのような若手研究者養成を目指したミニコースが定着していくことが期待される。

講演会場とは別にポスターセッション用の会場も設けた。国内外から若手の研究者を中心に16名が各自の最近の研究成果を発表した。ネームプレートにポスター発表者であることを明記することで、発表の内容に関する質問を講演の休憩時間などにも行えるように工夫した。RNC参加者がポスター発表者を囲んで議論している場面が多々あり、ポスターセッションは大変機能したと言える。

なお、海外からの研究者の滞在費(2名)を当財団の助成金から支出させて頂いた。二人はそれぞれ複素解析学と微分幾何学に関する内容に関して、ポスターセッションで研究成果を発表した。ともにRNCに大変熱心に参加した。

また、組織委員会が負担した旅費は750万円だったが、それにもかかわらず、海外から60名、国内から108名の参加があった。今回のRNCのプログラムの充実度に加えて、京都で開催されたことに対しても参加者の満足度は高く、京都でのRNCは大変意義のある国際研究集会になったといえる。

RNCの運営上、当財団から助成を受けたことは大変ありがたかった。組織委員一同、大変感謝している。

